

Economic Indicators

発表日:2025年3月19日(水)

貿易統計(2025年2月)

～米国向け自動車輸出の急増が実質輸出を牽引～

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 大柴 千智 (TEL:03-5221-4525)

		貿易収支(億円)				輸出数量			輸入数量				
		原数値	季調値	輸出金額 前年比	輸入金額 前年比	前年比	アメリカ 前年比	EU 前年比	中国 前年比	前年比	アメリカ 前年比	EU 前年比	中国 前年比
24年	1月	▲17,911	1,381	11.9	▲9.6	2.3	7.1	▲0.2	20.5	▲8.4	▲3.8	▲22.1	▲9.2
	2月	▲4,154	▲6,742	7.8	0.8	▲1.5	10.9	3.5	▲7.1	1.3	6.1	▲3.2	12.6
	3月	3,499	▲6,827	7.4	▲4.7	▲2.1	1.8	▲6.5	0.9	▲9.7	▲2.3	▲0.9	▲19.4
	4月	▲5,047	▲6,217	8.3	8.4	▲3.2	▲2.3	▲13.7	▲5.1	0.5	16.2	▲1.8	1.8
	5月	▲12,252	▲5,096	13.5	9.5	▲0.9	6.7	▲17.9	▲0.4	▲2.0	13.2	▲2.7	3.7
	6月	2,213	▲8,506	5.4	3.2	▲6.2	▲2.9	▲20.0	▲8.9	▲9.0	5.4	▲5.9	▲5.6
	7月	▲6,283	▲7,963	10.2	16.5	▲5.3	▲5.0	▲13.8	▲10.9	4.4	▲0.5	▲3.0	13.6
	8月	▲7,114	▲5,425	5.5	2.2	▲2.8	▲7.7	▲12.3	▲4.9	▲3.8	▲6.5	4.8	▲1.6
	9月	▲3,061	▲2,579	▲1.8	1.9	▲6.9	▲0.3	▲11.2	▲15.1	▲1.4	3.7	▲4.3	▲0.6
	10月	▲4,723	▲3,557	3.1	0.5	0.1	▲6.1	▲15.9	▲4.4	2.5	2.8	▲7.3	7.7
	11月	▲1,155	▲2,239	3.8	▲3.8	▲0.1	▲9.5	▲14.2	▲6.4	3.5	▲9.3	▲20.7	3.6
	12月	1,277	507	2.7	1.8	▲2.6	▲6.5	▲0.0	▲10.3	4.5	▲1.4	1.7	7.5
25年	1月	▲27,366	▲6,013	7.3	16.2	▲1.7	▲3.5	▲18.2	▲15.2	5.5	2.4	28.9	12.4
	2月	5,845	1,823	11.4	▲0.7	2.9	▲3.3	▲9.9	5.0	▲2.3	▲9.9	7.1	▲7.1

(出所)財務省「貿易統計」、前年比(%)

〇2月の貿易収支(季節調整値)は2か月ぶりの黒字転化

財務省より発表された2月の貿易統計では、輸出金額が前年比+11.4%、輸入金額が同▲0.7%となり、貿易収支は5,845億円の黒字(事前予想コンセンサス:7,397億円の黒字)となった。今年は、中華圏における春節の時期が昨年と異なったこと(昨年の春節は2月下旬、今年は1月下旬～2月上旬)で、1月は輸出の押し下げ要因となった一方、2月は押し上げ方向に働いたことで、輸出金額は前年比伸び率を高めた。また、後述の通り、米国向け自動車輸出の増加も牽引している。一方で、円安進行の一服で輸入物価が前年比下落に転じていることから輸入金額も小幅にマイナスに転じた。これにより、貿易収支は黒字転化となった。

また、季節調整値でも、輸出金額が前月比+4.0%(1月:同▲1.3%)と増加に転じた一方、輸入金額が同▲4.1%(1月:同+5.7%)と3か月ぶりに減少したことで、貿易収支は1,823億円の黒字(12月:▲6,013億円の赤字)と、2か月ぶりに黒字転化となった。

〇実質輸出(季節調整値)は米国向け自動車輸出の急増が継続

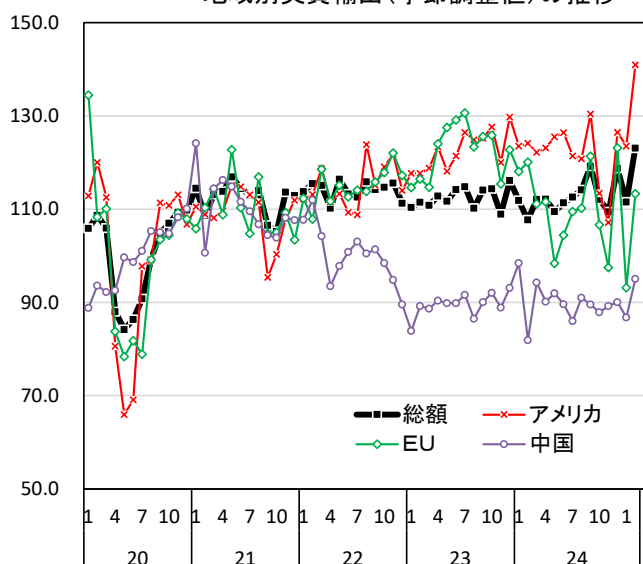
物価変動の影響を除いた実質輸出(季節調整値)は、前月比+10.4%(1月:同▲6.1%)となった。地域別にみると、米国向けが同+14.1%(1月:同▲2.3%)、欧州向けが同+21.6%(1月:同▲24.4%)、アジア向けが同+5.5%(1月:同▲1.1%)、アジア向けのうち中国向けが同+9.6%(1月:同▲3.7%)と、いずれの地域も増加に転じた。

実質輸出は、中華圏における春節の時期が昨年と異なったことで、2月は1月からの反動増が予想されていた。これに加えて、12月以降にみられる米国向け自動車輸出の増加が寄与し、2ヶタ台の高い

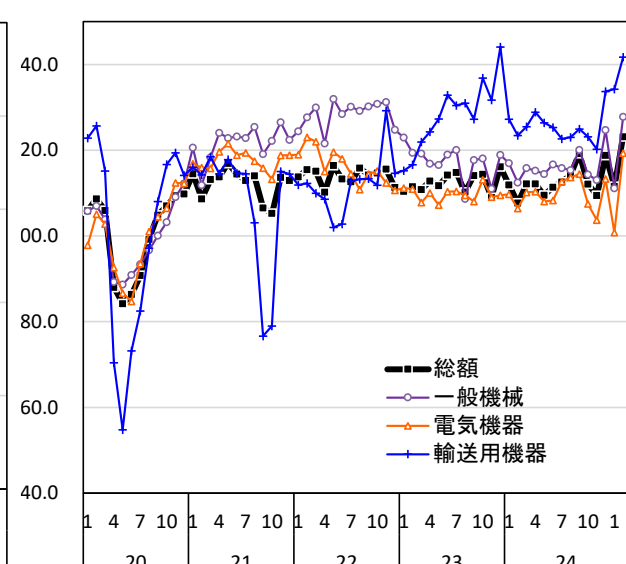
伸びとなった。米国向け自動車輸出（輸送用機器）は、12月+20.0%、1月+9.1%、2月+10.0%と急速な増加が続いており、2024年中に続いてきた緩やかな減少傾向からはっきりとした増加傾向に転じている。ただし、米国における関税引き上げに備えた駆け込み需要が影響している可能性もあり、この高い伸びが持続するかは慎重に判断する必要がある。

この結果、実質輸出の1-2月平均は10-12月期対比で+3.4%pt上回る（10-12月期：前期比▲1.6%）。自動車輸出の急増が全体を牽引した一方で、電気機器は10-12月期に前期比▲4.8%と落ち込んだ後1-2月平均も+1.8%ptの増加に留まるなど、これまで輸出を下支えしてきた半導体関連の勢いは鈍化している。先行きについても、半導体関連需要が一巡し、世界経済の減速感が残る中で、実質輸出への下押し圧力は強いものとみられる。輸出全体の力強い回復は期待しにくく、均せば停滞感の強い状況が続くだろう。米国を中心とした貿易摩擦の強まりが懸念される中で、下振れリスクに注意が必要だ。

(2020年=100) 地域別実質輸出(季節調整値)の推移



(2020年=100) 財別実質輸出(季節調整値)の推移



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。